

報告事項 キ

船上山少年自然の家及び大山青年の家における長期自然体験活動関連事業について

船上山少年自然の家及び大山青年の家における長期自然体験活動関連事業について、別紙のとおり報告します。

平成23年9月6日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

# 船上山少年自然の家及び大山青年の家における長期自然体験活動関連事業について

家庭・地域教育課

## 船上山少年自然の家主催事業「キッズアドベンチャー」

### 1 事業の概要

事業名：主催事業「キッズアドベンチャー ～仲間と歩むアツイ夏！～」

期 日：平成23年8月7日(日)～8月12日(金)(5泊6日)

参加者：県内外の小学4年生から6年生36名。

概 要：鳥取県中部地区の多くの山は古くから山岳仏教の霊場として栄えてきたといわれ、その付近には関連の寺社が多く散在している。そこで、周辺の自然を満喫しながら先人の修行を疑似体験できる約60kmのアドベンチャーウォークを行った。

その他：学生リーダーとして、島根大学から7名。鳥取大学から1名の学生がボランティアで参加した。

### 2 事業の詳細

#### 1日目<8月7日>

三徳山投入堂登山～三朝町立東小(7km)

鳥取県が日中の気温37℃と全国一暑い日を記録するなど、過酷な中でのスタートとなった。それでも子どもたちは、全員無事に三徳山投入堂登頂を果たし、みんなが元気に三朝東小学校に到着した。



<三徳山投入堂>

#### 2日目<8月8日>

三朝町立東小～湯梨浜町桜小跡地、寺社オリエンテーリング(13km)

いきなりの難所「波関峠」を越えて東郷湖沿いの桜小学校跡地までのロードウォーク。この日もかなり気温が高く、おまけに13キロという長距離。初のリヤカーに荷物を載せての移動ということもあり、荷造りの要領が分からず何度も荷物を落とし、ペースダウンする班もあれば、あっという間に峠を越え寺社巡りのオリエンテーリングを楽しむ班もあった。



<ロードウォーク>

#### 3日目<8月9日>

桜小跡地～カヌー東郷湖横断～足湯駐車場～北条小学校(7km)

子どもたちが一番楽しみにしていた東郷湖のカヌー縦断及び7キロのロードウォーク。遠くに見える北栄町の9基の風車全てが止まるという無風のベストコンディションの中、40艇のカヌーが対岸の足湯の船着き場を目指し出発した。到着後、ご褒美のプール遊びもあって子どもたちは大満足。ホッと生き返る一時であった。



<カヌー>

#### 4日目<8月10日>

北条小学校～赤碕小学校(18km)

最高のおもてなしを受け、北条小学校の先生方に大きな声でお礼を言い、出発した。今日は「キッズアドベンチャー」最難関である赤碕小までの18kmロングウォークの日。途中、八橋や赤碕の旧道を歩く班に、たくさんの地元の方々から応援の声をかけられ、地域の方々の温かい人情に触れ、たくさんの元気をもらった。



<北条小学校>

5日目<8月11日>

赤碓小～船上山頂上～少年自然の家(13km)

ロード最終日。昼食・給水ポイントの以西小学校に到着するまでの梨畑で、通過する班すべてに梨をプレゼントされる農家の方もあり、ここでも地域の方々の優しさに触れる。ダム湖の堤防を渡ってリヤカーを置き、今度は必死に頂上目指して登山開始。

5日間の猛暑との戦いに打ち勝った子どもたちは、全員満面の笑顔で共に頑張った友達と抱き合っていた。夜、キャンドルファイヤーの後、家族から届いた手紙を大事そうに読んでいた姿が印象的であった。



<船上山少年自然の家に到着>

6日目<8月12日>

船上山少年自然の家

キッズアドベンチャーの振り返りをした後、午後別れのつどいを行った。6日間を写真で振り返るスライドショーを保護者の皆さんにも見ていただき、最後の別れでは、みんなで肩を組んで「栄光の架け橋」を歌い、6日間の健闘をお互い讃え合った。

別れのつどいで1人1人がこの6日間での体験の感想を保護者の前で読んだ。この体験で学んだことやこれからの生活に活かしていきたいことなどを発表した。



<別れのつどい>

### 3 事業の成果

(1) 参加児童の感想(抜粋)

いつも当たり前だと思っているものの大切さ、ありがたさを学んだ。みんなで協力することの大切さ、頑張り続けることの大切さ、話し合うことの大切さを学んだ。体力にも自信がついた。(6年女)

参加して学んだことは、どんなことでも協力できるということです。自信がついたことは、はっきりと自分の言いたいことが言えるようになったことです。学校に行ったら、進んで何でもチャレンジしたいと思います。特に返事やあいさつを大きな声でやりたいです。頑張ろうと思うことは、家の人の役に立つようにしたいです。(5年女)

自分に自信がもてるようになったし、どんな時でもあきらめない自信ができました。何より、どんな時も自分は一人じゃないということを学びました。家に帰ったら、たくさん遊んで、今以上にたくさん友達をつくりたいです。みんなをまとめられるような人になりたいです。(6年男)

(2) 総括

- ・ 36人の参加者全員が無事にゴールできたことが何よりもうれしかった。さらにこの体験を通して参加者は協力、仲間、忍耐などの大切さを学んだと思う。学校や家庭に戻ってからも、人のつながりを大切にできるそんな人間に成長してほしい。
- ・ リヤカーを引き、暑く、長い道のりを歩き通した参加者の姿は本当にすばらしかった。それは必ず、自分の自信になりこれからの人生を送る上で、貴重な体験だったと思う。

# 大山青年の家主催事業「大山わくわく探検隊‘11」

## 1 事業の概要

事業名：主催事業「大山わくわく探検隊‘11」

期 日：8月1日(月)～5日(金)(4泊5日)

参加者：県内外の小学5年生から中学3年生 38名

概 要：『3つのステキ』(自然のステキ・友達のステキ・自分のステキ)さがしの旅というテーマで、4泊5日のキャンプを実施した。

その他：学生リーダーとして、将来教職をめざす島根大学(3名)、サブリーダーとしてわくわく探検隊OBの高校生(2名)、救護スタッフ(4名)として養護教諭や看護師、活動の講師として西部広域消防隊員(5名)が参加した。

## 2 事業の詳細

### 1日目<8月1日>『弥生の日』

大山公民館～むきばんだ史跡公園

夕食は、火起こしをして古代米の雑炊などを作った。

夜は、弥生の館で職員による歴史学習を行い、竪穴式住居で就寝した。



### 2日目<8月2日>『残雪の日』

<野外炊事>

大山自然歴史館～大神山神社～元谷～大山北壁

はじめに、大山自然歴史館で大山の自然と歴史を学び、大神山神社、元谷を經由し、大山の北壁をめざして登山を行った。残雪の残る谷まで登り、子どもたちは雪に触れたり、風穴から吹き出る冷風にあっていた。



<いまだに残る残雪>

### 3日目<8月3日>『源流の日』

川床橋～阿弥陀滝

阿弥陀川を逆上ること約2時間30分で、阿弥陀滝に到着。冷たい水に歓声上がる。帰る途中で第4堰堤にて水遊びを楽しんだ。夜は、キャンプファイヤーを実施した。



### 4日目<8月4日>『山頂の日』

大山青年の家～大山夏山登山道～大山山頂

大山青年の家から大山夏山登山道入り口まで徒歩で移動し、さらに頂上を目指す。

好天に恵まれ、日本海に沈む夕日や星空を見ることができた。米子市の夜景や漁火、キャラボク林内に生息するヒメボタルの光に歓声が上がった。この日は大山山頂の山小屋に泊まった。

<沢登り>



<大山山頂にて>



<山頂からの夕日>



<影大山>

5 日目 < 8 月 5 日 > 『ご来光の日』

大山山頂～元谷～大山青年の家

東の空に雲がかかり、ご来光は見られなかったが、雄大な影大山は見る事ができた。下界の見晴らしは良く、西は松江市宍道湖、北は隠岐の島のあたりまで見る事ができた。別れのつどいでは、5 日間を振り返り、スタッフと涙、涙で別れを惜しむ隊員たちの姿があった。

### 3 事業の成果

#### ( 1 ) 参加児童の感想 ( 抜粋 )

ぼくは、この5 日間でとてもうれしかったことは、隊員のみんなと仲良くなれたということです。体力もついたり、みんなと仲良くなれたし、山頂で宿泊もできました。大山に登って、小屋に泊まるなんてなかなか体験できません。一番心に残っているのは、やはり最後の登山です。大山を登ったのは2 回目でした。一度目はとてもきつかったけどあまり重い荷物を持たなかったの、たくさんの荷物を持って行くのは初めてです。やはり重かったです。でも、頂上に着いたときの喜びは、一度目と変わらず、すばらしかったです。また行けたら来年も行って、3 回目も同じ喜びを感じてみたいです。( 5 年男 )

私が住んでいるところに「こんなすてきな自然があるんだなあ」と思いました。それに、他の小学校や中学校の人と友達になれるので良かったです。初めて来て、流れとか雰囲気良く分からなくて、不安だったけど、やっぱり楽しかったです。班のみんなとご飯を作ったり、テントを立てたり、出し物を話し合ったりと、協力できました。大山の景色や阿弥陀川の源流とかがきれいでした。

私も人にばかり仕事を押しつけるのではなく、自分も班の役に立てるように協力しました。最初は、大山の頂上に本当に登れるか不安でした。でも、足が痛くても、ころんでも、最後まで歩いて頂上に着くと、「ああ、私もやればできる。」と思えました。本当にうれしかったです。この5 日間、あつという間だったけど、いろいろ楽しかったです。( 5 年女 )

#### ( 2 ) 総括

- ・最初はまとまりが見られなかった班でも、3 日目の「源流の日」の阿弥陀川沢登りの活動の頃から、体調の悪い仲間に「大丈夫？」と声をかけたり、困っている仲間を助けてあげたりという気遣いが見られるようになった。
- ・参加者の中には初めての体験が多く、不安に思っているのがうかがわれたが、活動が達成できたことで自信につながった様子だった。自然のすばらしさに感動したこと、友達ができたとの喜びについての感想が多く見られた。
- ・このキャンプの参加者OB 2 名( 高校生 ) がサブリーダーとして参加したが、今回の参加者からも高校生になってもスタッフとして参加したいという希望があった。今後もこのようなリーダーが育ってほしい。